

# 岩手県感染症週報

令和8年第2週（1月5日～1月11日）

岩手県感染症情報センター

## 第2週

### 1類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 2類感染症

- 結核の報告が4例ありました。

### 3類感染症

- 患者発生の報告はありませんでした。

### 4類感染症

- レジオネラ症の報告が3例ありました。

### 5類感染症（全数把握対象疾患）

- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が2例ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例ありました。
- 水痘（入院例）の報告が2例ありました。
- 梅毒の報告が1例ありました。
- 百日咳の報告が1例ありました。

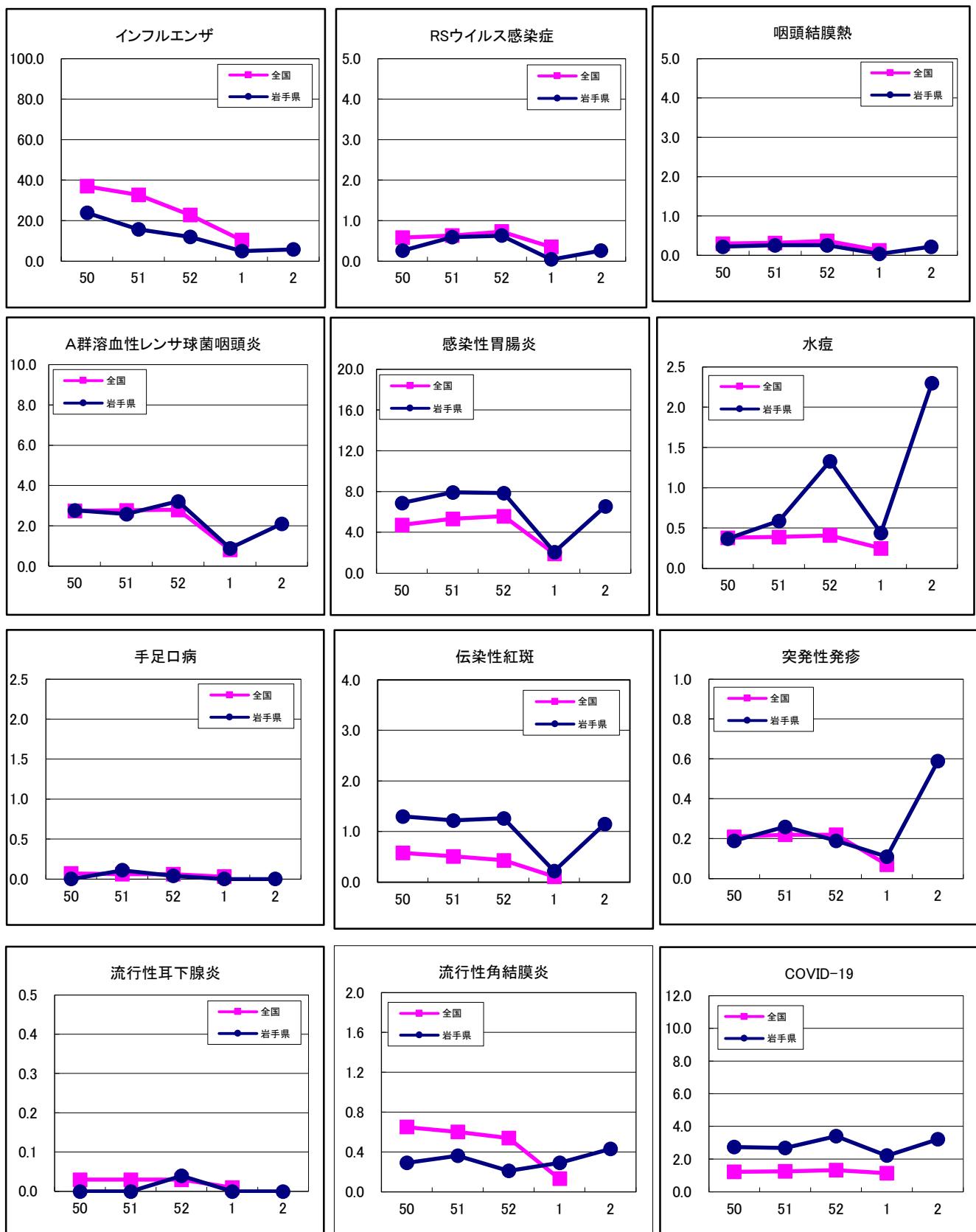
### 5類感染症（定点把握対象疾患）

- 水痘の定点当たり患者数は2.30人となり、警報値（2.0人）を超えるました。二戸、中部地区で特に報告が多くなっています。水痘はいわゆる「みずぼうそう」のことで、主に小児の疾患ですが、まれに成人でも感染する場合があります。空気感染、飛沫感染、接触感染により広がります。予防にはワクチン接種が有効です。
- 伝染性紅斑（リンゴ病）の定点当たり患者数は増加し、1.15人となりました。宮古、釜石、中部、一関地区で警報値（2.0人）を超えていました。伝染性紅斑は小児を中心にみられる感染症で、微熱や咳等かぜ様症状がみられた後、両頬に境界明瞭な紅斑、四肢伸側にはレース状の紅斑が現れます。飛沫感染や接触感染しますが、紅斑出現時には感染力はほとんどありません。こまめな手洗いや咳エチケット等の基本的な感染予防対策が重要です。
- インフルエンザの定点当たり患者数は増加し、5.71人となりました。年齢階層別では全体の約8割が10代以下となっています。県環境保健研究センターの検査では、AH3亜型及びAH1pdm09亜型が検出されています。手洗い、手指消毒、咳エチケット等基本的な感染予防対策が重要です。症状がある場合は、感染を広げないようマスクを着用のうえ受診をしましょう。

「岩手県・新型コロナ対策  
パーソナルサポート  
(@iwatevcovid19)  
ID検索またはQRコードから友達追加



## 注目の疾患(定点当たり患者数の過去5週の動き)



## 定点把握対象疾患(過去5週の動き)

## 【流行傾向の見方】

無印 : ほとんど患者が発生していません

☆ : 患者が発生しています

☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えていました

(定点当たり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向
		50	51	52	1	2	
インフルエンザ	岩手県	23.86	15.60	11.98	4.98	5.71	↗☆
	全国	36.96	32.73	22.77	10.35		
RSウイルス感染症	岩手県	0.26	0.59	0.63	0.04	0.26	↗☆
	全国	0.58	0.63	0.73	0.35		
咽頭結膜熱	岩手県	0.22	0.26	0.26	0.04	0.22	↗☆
	全国	0.30	0.32	0.37	0.13		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.78	2.59	3.22	0.89	2.11	↗☆
	全国	2.75	2.77	2.80	0.82		
感染性胃腸炎	岩手県	6.89	7.93	7.85	2.07	6.56	↗☆
	全国	4.73	5.33	5.59	1.90		
水痘	岩手県	0.37	0.59	1.33	0.44	2.30	↗☆☆
	全国	0.38	0.39	0.41	0.25		
手足口病	岩手県	0.00	0.11	0.04	0.00	0.00	→
	全国	0.07	0.06	0.06	0.03		
伝染性紅斑	岩手県	1.30	1.22	1.26	0.22	1.15	↗☆☆☆
	全国	0.58	0.51	0.43	0.11		
突発性発疹	岩手県	0.19	0.26	0.19	0.11	0.59	↗☆
	全国	0.21	0.22	0.22	0.07		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.00	0.04	0.07	0.00	0.00	→
	全国	0.02	0.02	0.03	0.01		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	→
	全国	0.03	0.03	0.03	0.01		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.01	0.00	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.29	0.36	0.21	0.29	0.43	↗☆
	全国	0.65	0.60	0.54	0.13		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	2.74	2.67	3.40	2.21	3.21	↗☆
	全国	1.21	1.24	1.32	1.13		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.03	0.01	0.02		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.05	0.00	0.05	↗☆
	全国	0.03	0.03	0.03	0.03		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.53	0.53	0.37	0.32	0.37	↗☆
	全国	0.85	0.81	0.71	0.43		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.01	0.01	-		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00	→
	全国	0.01	0.02	0.01	0.01		
インフルエンザ(入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	21	34	26	12	13	
	全国	1899	1895	1401	1009		
急性呼吸器感染症(ARI)	岩手県	93.14	85.79	91.67	26.00	66.05	↗☆
	全国	80.96	77.34	73.43	29.12		

※2025年4月7日より急性呼吸器感染症(ARI)が定点把握対象疾患となりました。

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症(定点把握対象疾患)から5類感染症(全数把握対象疾患)へ変更されました。

## 全数把握対象疾患(過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)		岩手県				全国	
		50	51	52	1	2	累計	1	累計
一類感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核( )内は潜在性結核感染症患者再掲	5 (4)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (1)	4 (1)	41	41
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群(MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	1	0	1	0	0	0	13	13
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	0
四類感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	1	1
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	エキノコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	エムポックス	0	0	0	0	0	0	0	0
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	キヤサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	0	0	0	0	0	0	1	1
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	3	3
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	2
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ(H5N1, H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネズエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	マラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	野兎病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	レジオネラ症	1	1	3	0	3	3	37	37
	レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0

## 全数把握対象疾患(続き)(過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県						全国	
		(週) 50	51	52	1	2	累計	1	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	2
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	0	0	0	0	9	9
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	0
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	2	2
	クリプトスピリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	1	0	2	2	8	8
	後天性免疫不全症候群	1	0	0	0	0	0	0	0
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	6	6
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	2	1	1	2	32	32
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	2	2	3	3
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	1	0	0	0	1	1	28	28
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	1	1
	破傷風	0	0	0	0	0	0	1	1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	1	1
	百日咳	6	0	5	0	1	1	46	46
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0
	麻しん	0	0	0	0	0	0	1	1
	薬剤耐性アシネットバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0

## 今注目の感染症

## 急性呼吸器感染症 (ARI)

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection: ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が感染症法上の5類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となりました。これにより、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザのような流行しやすい急性呼吸器感染症の流行の動向を把握することができ、また、仮に未知の呼吸器感染症が発生し始めた場合に迅速に探知することが可能となります。

急性呼吸器感染症に対する予防方法として、基本的な感染症対策である換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの実施が有効です。

なお、県内の急性呼吸器感染症の発生状況(速報)については、岩手県感染症情報センターのホームページをご覧ください。

【参考】急性呼吸器感染症(ARI) (厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/ari.html>

## 今注目の感染症

## 百日咳

百日咳は主に百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) を原因とし、けいれん性の咳発作を特徴とする、感染力が強い急性気道感染症です。乳児（特に新生児や乳児早期）では重症化することもあります。感染症法に基づく感染症発生動向調査では、2018年1月1日以降、5類全数把握疾患に定められています。

百日咳の感染経路は鼻咽腔や気道からの分泌物による飛沫感染と接触感染であり、感染力が強いことが知られています。潜伏期間は通常7～10日程度で、風邪症状で始まり咳が激しくなるカタル期、特徴的な咳や呼吸音がみられる痙攣期を経て回復期に至ります。乳児では痙攣期に重症化することがあり、肺炎や脳症などの合併症を併発し、まれに死亡することがあります。成人の百日咳では咳が長期にわたって持続しますが、典型的な発作性の咳を示すことは少ないとされています。

百日咳は、新型コロナウイルス感染症の流行による呼吸器感染症に対する感染対策の強化に伴い、2020年以降届出数が大きく減少し、2024年から再び増加しています。また、第一選択薬として用いられるマクロライド系抗菌薬に対する耐性株の報告が2008年頃から東アジアで増加しており、2024年には国内でも報告がみられています。

岩手県では2025年の報告数が速報値（※）で1494例となり、2018年以降で過去最多の報告数となりました（図1及び図2）。

（※）データは報告数集計の速報値として公開するものであり、後日感染症発生動向調査週報、さらには確定データとしての年報において修正される場合があります。



図1 岩手県の百日咳の診断週別報告数推移

(2018年～2026年第2週)

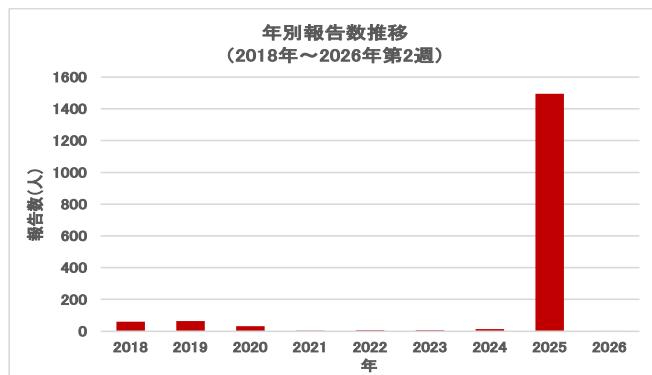


図2 岩手県の百日咳の年別報告数推移

(2018年～2026年第2週)

※診断週別報告数と速報値は、必ずしも一致するものではありません。

今週の地域別及び年齢階層別の報告数は表1、表2のとおりです。

百日咳の対策については、特に重症化予防の観点から、定期接種の対象年齢（月齢）に達した乳児はすみやかに百日咳抗原含有ワクチンの接種を受けることが最も重要です。また、地域で百日咳が流行している状況下では、特に乳児や妊婦が周辺にいる、成人を含む小中高生より上の年代において、長期の咳が持続する場合は、百日咳の可能性を念頭においていた医療機関の受診や予防行動をとってください。

表1 岩手県における百日咳の地域別報告数

地域別	盛岡市	県央	中部	奥州	一関	大船渡	釜石	宮古	久慈	二戸	計
2026年2週	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1～2週累計	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

表2 岩手県における百日咳の年齢階層別報告数

年齢階層別	0歳	1～4歳	5～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計
2026年2週	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
1～2週累計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

## 【参考】

百日咳（厚生労働省）[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/whooping\\_cough.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekakukansenshou19/whooping_cough.html)

百日咳（国立健康危機管理研究機構）<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/pertussis/010/index.html>

## 今注目の感染症

## 伝染性紅斑

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 により小児を中心に見られる流行性の発疹性疾患です。典型例では両頬に境界明瞭な紅斑が出現することが特徴的で、リンゴ病と呼ばれることもあります。四肢にも網目状、レース様の発疹が見られます。

感染経路は飛沫感染、接触感染です。潜伏期間は10日から20日と言われており、感染後1週間頃にウイルス血症を起こし、インフルエンザ様症状を呈することがあります。この時期にウイルスが排出され、発疹が出現する時期には抗体が産生されてウイルスは排出されないとされています。

成人が感染した場合では関節痛が見られることがあります、長引くことがあるほか、妊婦が感染すると胎児に感染して流産、死産を起こすことがあります。

全国の発生状況は図1のとおりです。岩手県の発生状況は、2024年第48週頃から増加が見られ、2019年以来の流行となっています(図2)。今週の県内各保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

ウイルスが排出される時期に感染していることがわからないことと、アルコール消毒が効きにくいことから、対策は容易ではありません。

- (1) 日頃から石けんと流水による手洗いの励行
- (2) 咳エチケット
- (3) 塩素系消毒剤によるドアノブやおもちゃの消毒
- (4) 食器等の共用を避ける
- (5) 妊婦では日頃から予防対策を徹底すること

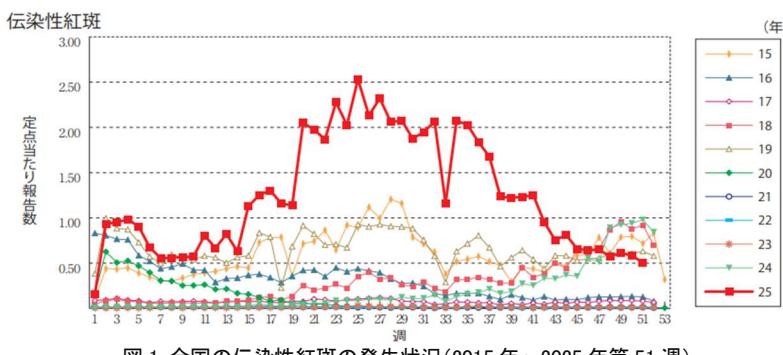


図1 全国の伝染性紅斑の発生状況(2015年～2025年第51週)

(国立健康危機管理研究機構HPより)

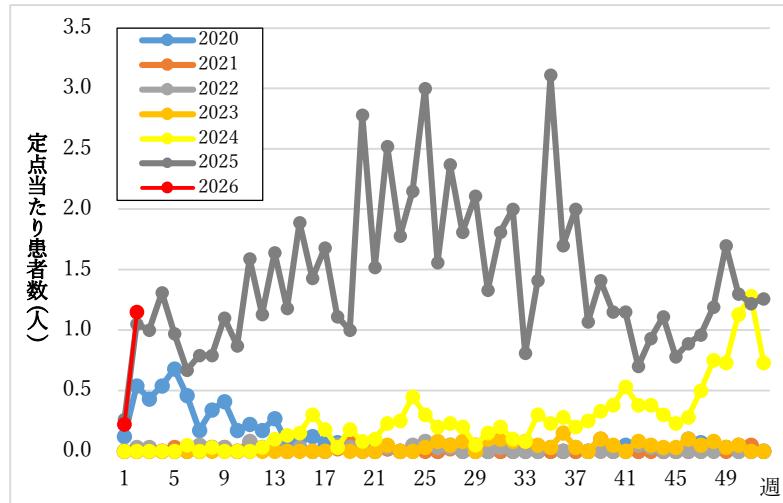


図2 岩手県の伝染性紅斑の発生状況

(2019年～2026年第2週)

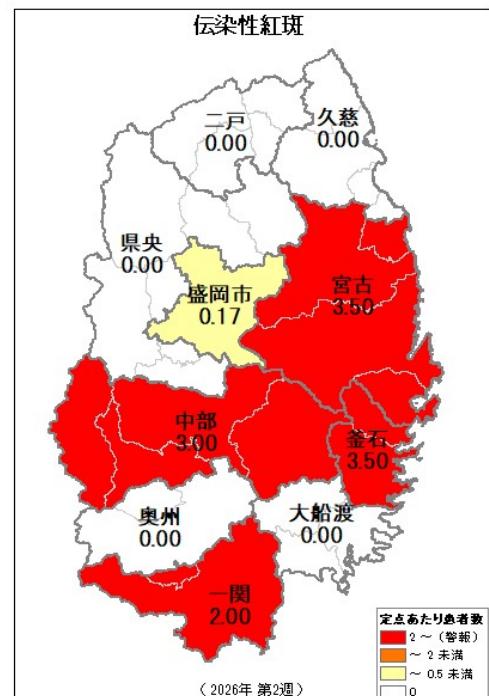


図3 第2週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図（国土地理院）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号平29情使、第675号）

## 【参考】

伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ta/5th-disease/index.html>

## 今注目の感染症

## 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因是ノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年11月から増加し12月と1月から2月頃にピークを迎えます(図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、2024年では全国と同様の流行形態をとっています。第5週にピークを迎えました(図1及び2)。2025年は第11週にピーク(13.26人)となりました。今週の県内各保健所管内の定点当たり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2025年4月から2026年第2週までに51例報告されました。内訳はノロウイルスが22例、ロタウイルスが1例、その他(サポウイルス等)が28例でした。

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85~90°C・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

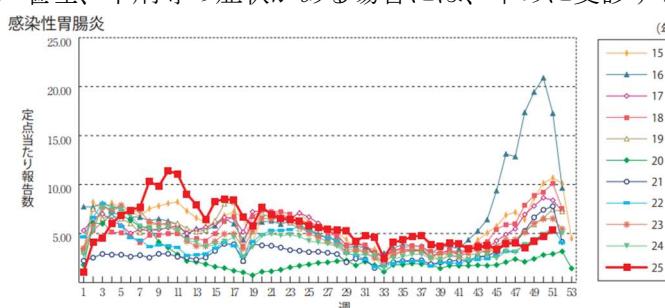


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況(2015年～2025年第51週)

(国立健康危機管理研究機構HPより)

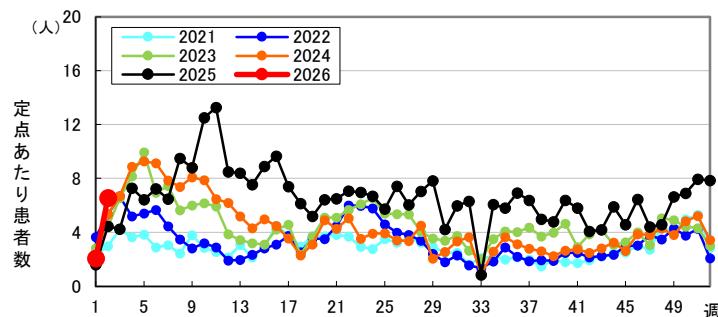


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況

(2021年～2026年第2週)

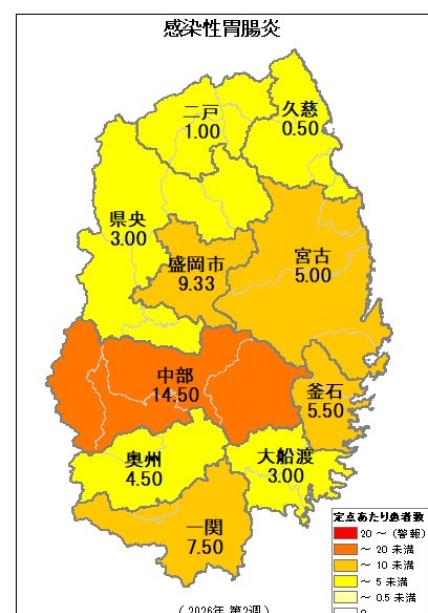


図3 第2週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

【参考】感染性胃腸炎(国立健康危機管理研究機構) <https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/intestinal/010/intestinal-intro.html>

## 今注目の感染症

## インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする急性の呼吸器感染症で、毎年のように世界で流行がみられます。潜伏期間は1日～3日程で、38°C以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。インフルエンザウイルスにはA型、B型、C型の3型がありますが、流行するのはA型とB型です。

全国のインフルエンザの発生状況は図1のとおりです。例年11月下旬から12月上旬頃に増加し始め、翌年の1月から2月頃にピークとなり減少しますが、2023/24シーズンは12月上旬にピークが見られました。

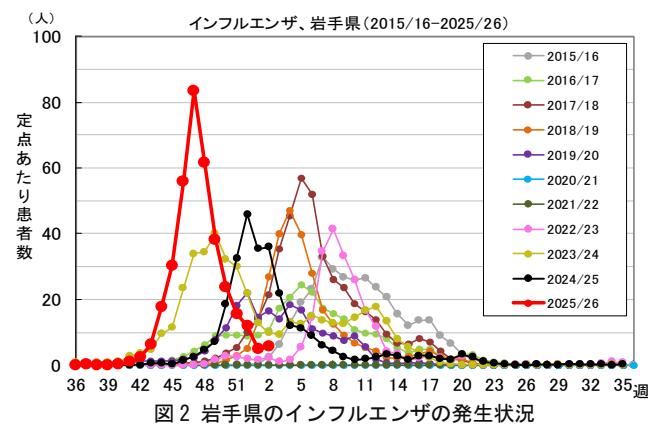
岩手県では、例年11月下旬から12月頃に流行入りし、1月から3月頃に患者数が増加します。コロナ禍であった2020/21シーズンの報告数は患者実数（※注）で6人、2021/22シーズンは同9人で、流行開始の目安である定点当たり患者数1.0人を上回ることなく低調でした。2024/25シーズンは第46週に流行入りし、第51週に警報値（30人）を超えて、第52週にピーク（45.94人）となりました。2025/26シーズンは第41週に流行入りしました（図2及び表1）。第44週には注意報が、第45週には警報が発令されました。今週の県内各保健所管内の定点当たり患者数は図3のとおりです。

主な感染経路は、咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫による感染（飛沫感染）と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が挙げられ、この他にワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでに2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。接種を希望する人は、事前に医療機関にお問い合わせください。

（※注）患者実数とは定点医療機関において報告された患者数



（2015年～2025年第51週、（国立健康危機管理研究機構HPより））



（2015年～2026年第2週）

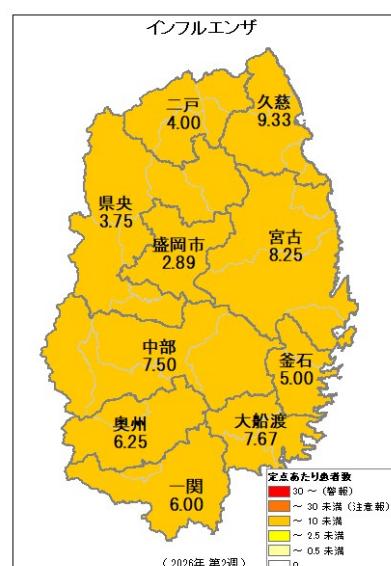
表1 各シーズンの流行入り・注意報・警報を超過した週

シーズン	流行入り 定点あたり患者 数1.0人	注意報発令 定点あたり患者 数10.0人	警報発令 定点あたり患者 数30.0人	ピーク 定点あたり患者数
2014/2015	47	48	52	1 34.3
2015/2016	1	3	6	6 32.88
2016/2017	45	2		5 24.45
2017/2018	48	1	3	5 56.98
2018/2019	50	1	3	4 47.11
2019/2020	42	50	—	52 22.06
2020/2021	—	—	—	—
2021/2022	—	—	—	—
2022/2023	49	6	7	8 41.37
2023/2024	40	45	47	49 40.06
2024/2025	46	50	51	52 45.94
2025/2026	41	44	45	

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図（国土基本情報）電子国土基本図

（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）



（2026年第2週）

## 今注目の感染症

## 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2025年1月から2025年12月までに県内で検出された新型コロナウイルス変異株の解析結果は図2のとおり、2026年第2週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

高齢者や基礎疾患のある方は重症化のリスクがあるので特に注意が必要です。予防には、咳エチケットや手洗い、換気等普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

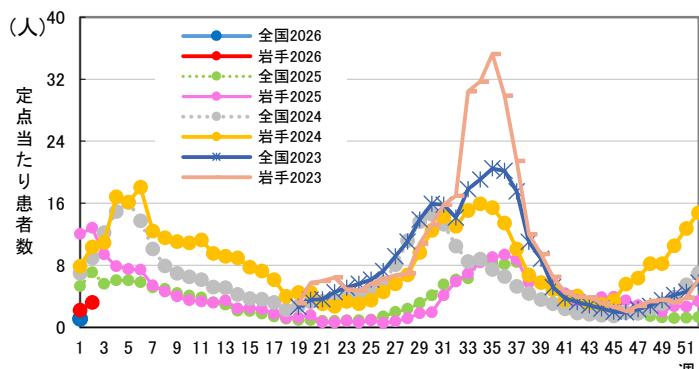


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第20週～)

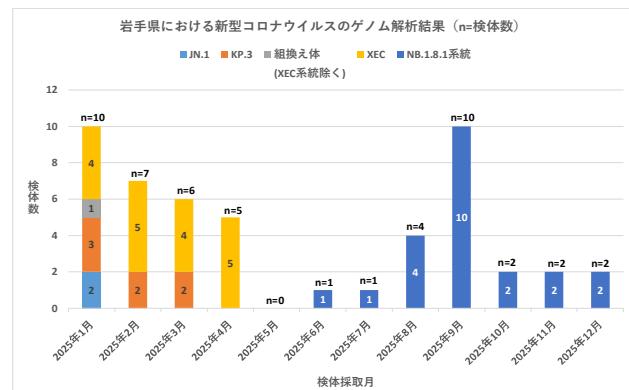


図2 岩手県における新型コロナウイルスゲノム解析結果

(2025年1月～2025年12月)

## 【参考】

新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 関連情報（国立健康危機管理研究機構）

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ka/coronavirus/index.html>

岩手県の新型コロナウイルス感染症関連情報

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/index.html>

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報

（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、

同院発行の 数値地図(国土基本情報)電子国土基本図（地図情

報)を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

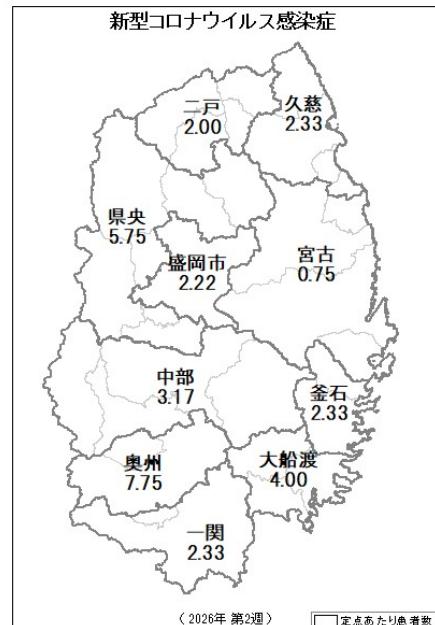


図3 第2週の保健所管内別の状況

## 今注目の感染症

### 水痘

水痘（すいとう）とは、いわゆる「みずぼうそう」のことで、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こされます。小児によく見られる疾患で、9歳以下の発症が90%以上を占めると言われています。

主な症状として、発疹の発現する前から発熱が認められ、発疹が発現すると紅斑（皮膚の表面が赤くなること）から始まり、水疱（水ぶくれ）、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て、かさぶたとなり治癒します。通常は軽症ですが、成人では重症になることがあります。発疹前に発熱、倦怠感が先行し、肺炎や脳炎など重篤な合併症を起こし、死亡することもあります。治療には抗ウイルス薬が用いられます。

感染経路は主に空気感染、飛沫感染、接触感染です。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。

水痘にはワクチンがあり、水痘ワクチン1回の接種で重症の水痘をほぼ100%予防できます。2回の接種では軽症の水痘も含めてその発症を予防することができると考えられています。水痘ワクチンの接種対象者とスケジュールについては、厚生労働省のホームページ（[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou\\_kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/chickenpox/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/chickenpox/index.html)）をご覧ください。この他の対策として、患者の水疱に触れた後の確実な手洗いや、タオルの共用を避けるといったことも重要です。

水痘は2020年以降、新型コロナウイルス感染症の流行もあり低調に推移してきました。しかし、2025年第24週の定点当たり患者数（0.61人）は、前年同時期（0.25人）、また直近で第24週の定点当たり患者数が最も高かった2019年（0.39人）を大きく上回りました。全国の水痘の発生状況は図1のとおりです。

岩手県では、2016年から2025年までの10年間と比較して、2026年第2週の定点当たり患者数（2.30人）が最も多くなり、警報値（2.0人）を超えました。今週の県内各保健所管内の定点当たり患者数は図2のとおりです。

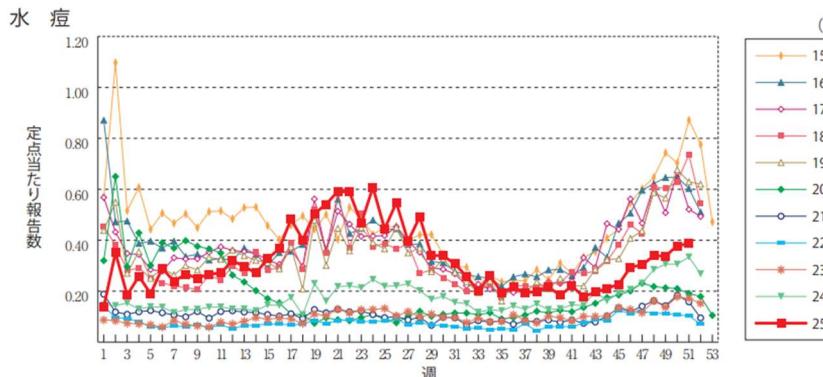


図1 全国の水痘の発生状況（2015年～2025年第51週）

（国立健康危機管理研究機構HPより）

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」

をもとに岩手県が編集・加工した。

※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地

図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情、

第675号）

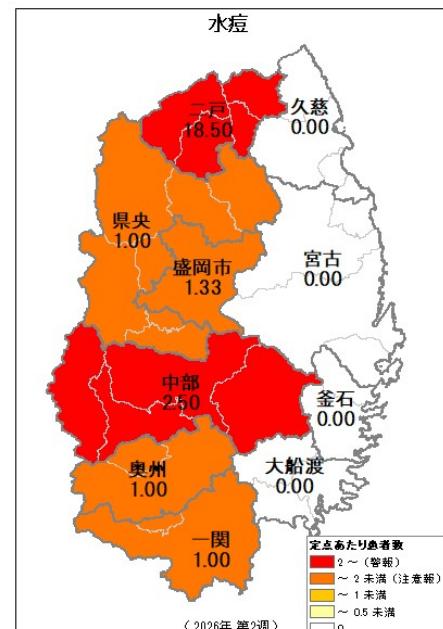


図2 第2週の保健所管内別の状況

【参考】水痘（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryou/kenkou\\_kekkaku-kansenshou/chickenpox.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou_kekkaku-kansenshou/chickenpox.html)

## 岩手県の電話等相談窓口

### 県民医療相談センター

受付時間：平日 9 時から 16 時

TEL : 019-629-9620 FAX : 019-626-0837

### 岩手県救急医療電話相談ダイヤル「#7119」

受付時間：24 時間 365 日

TEL : #7119 (ダイヤルまたは IP 電話の場合は 019-656-1774)

《15 歳未満のお子さんに関するご相談》

### 岩手県小児救急医療電話相談「#8000」

受付時間：午後 7 時から翌朝 8 時まで 年中無休

TEL : #8000 (ダイヤルまたは IP 電話の場合は 019-605-9000)

《岩手県の受診・相談（新型コロナウイルス感染症）ホームページ》

「かかりつけ医」がない場合、ご相談ください。

- ① 発熱等の症状がある場合の健康相談や受診先の相談。
- ② ワクチンの効果や体への影響、接種後の副反応についての相談。

ホームページはこちら↓

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/covid19/1052939.html>



## 集団感染情報

### ○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について

- ・岩手県 2件
- ・盛岡市 0件

### ○感染性胃腸炎の集団発生について

- ・第2週に公表された集団発生事例はありません。

### ○インフルエンザによる学校等休業措置について (第2週公表)

- ・岩手県 0件
- ・盛岡市 0件

## 病原体検出情報

今週の病原体検出情報はありません。

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

## Q&A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

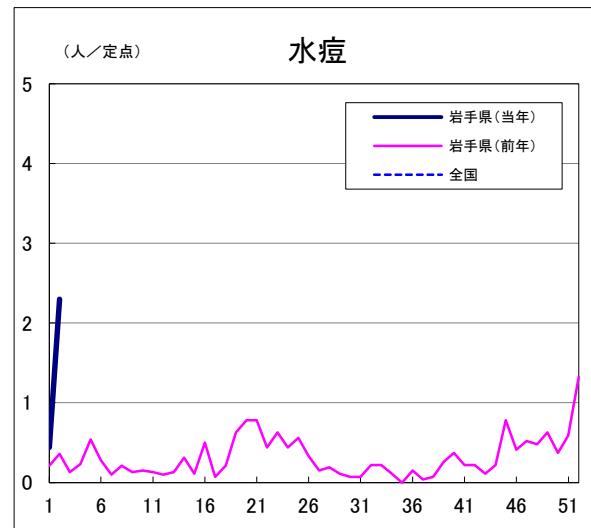
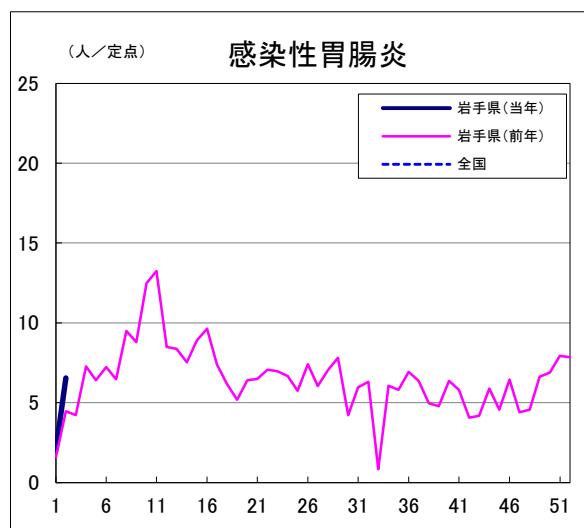
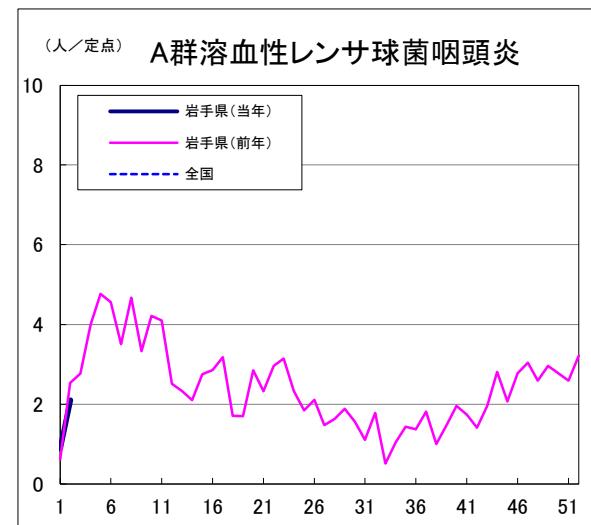
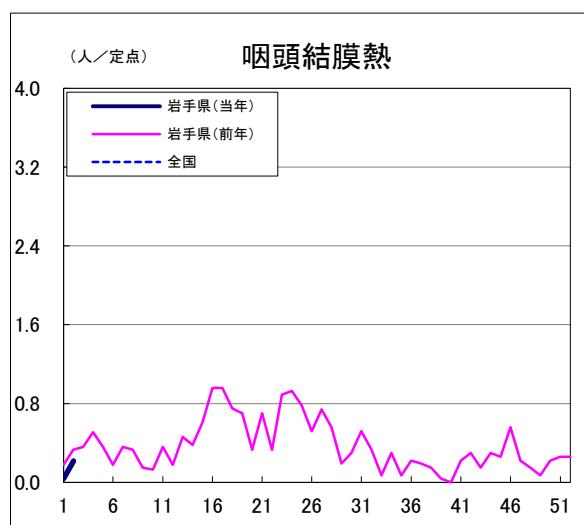
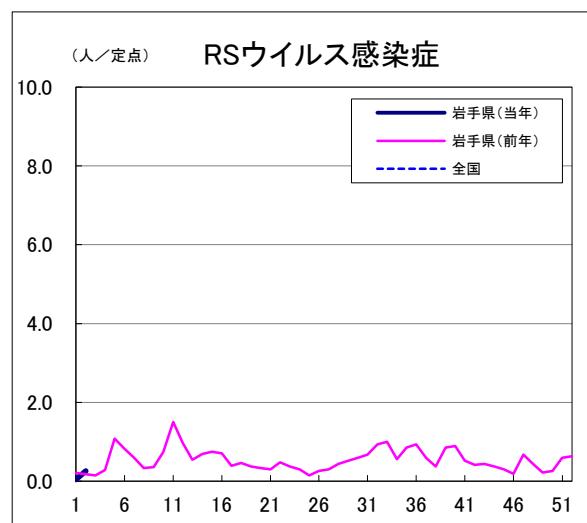
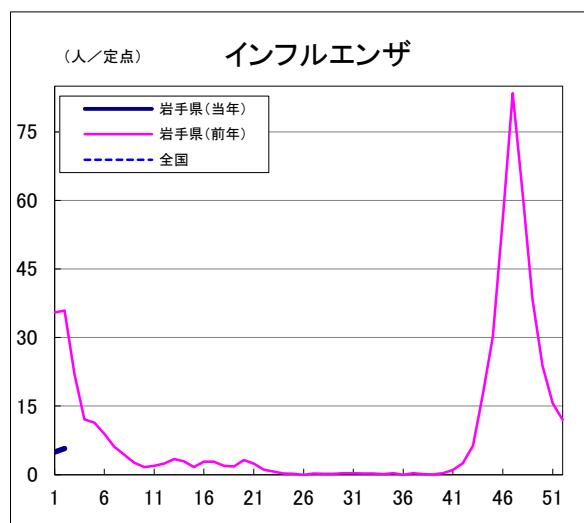
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

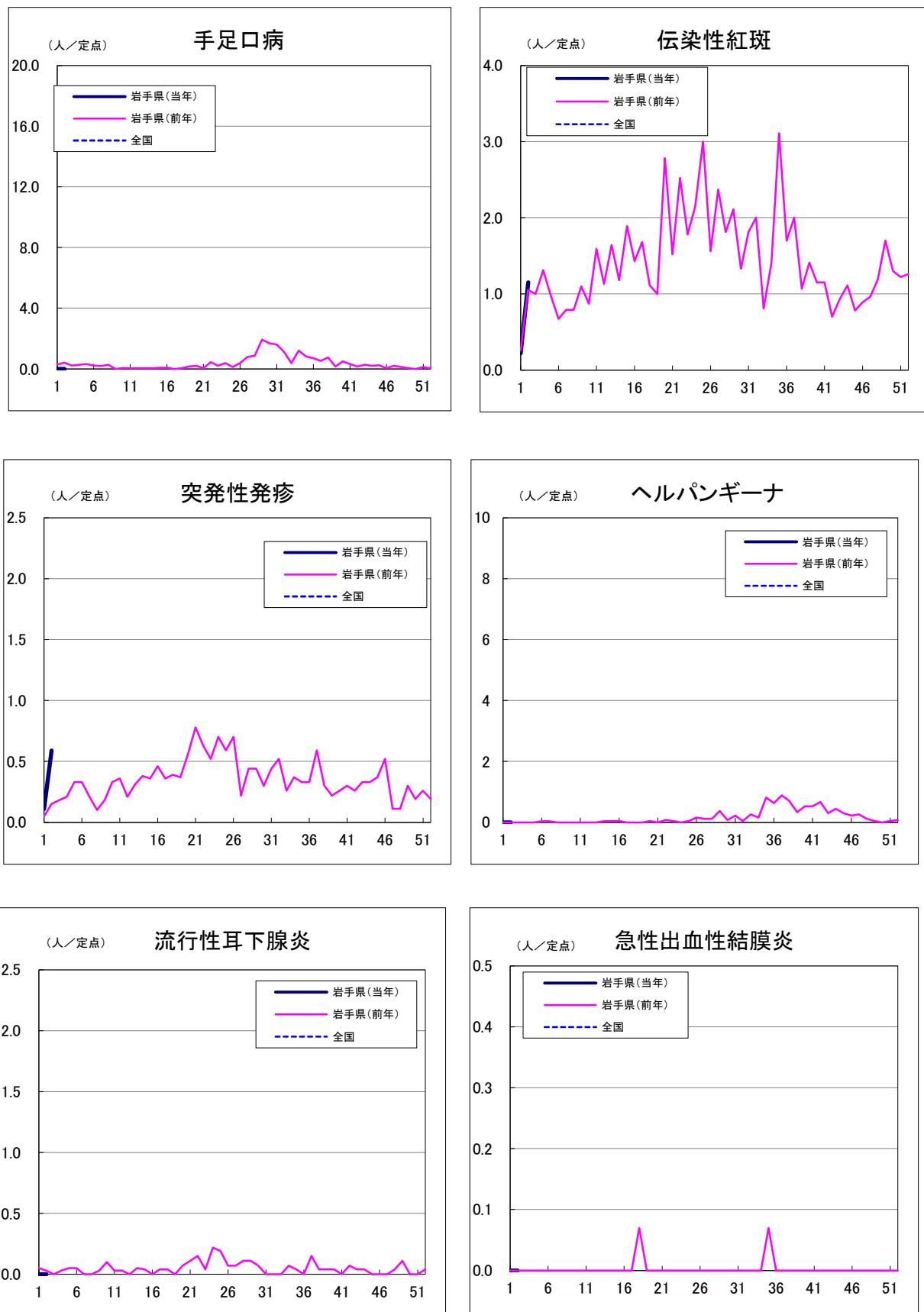
岩手県感染症情報センター (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

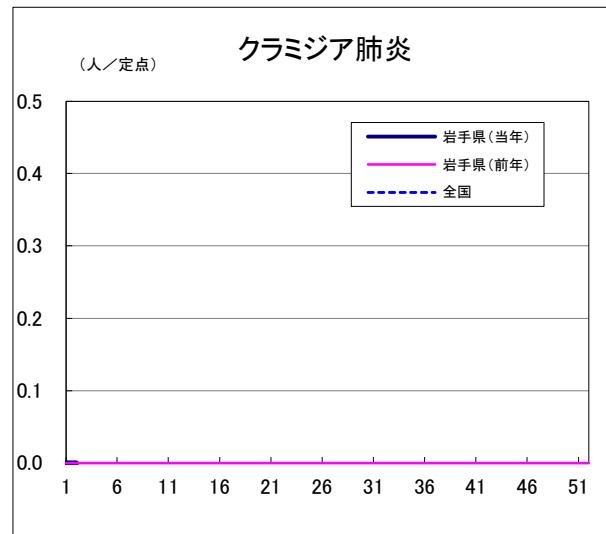
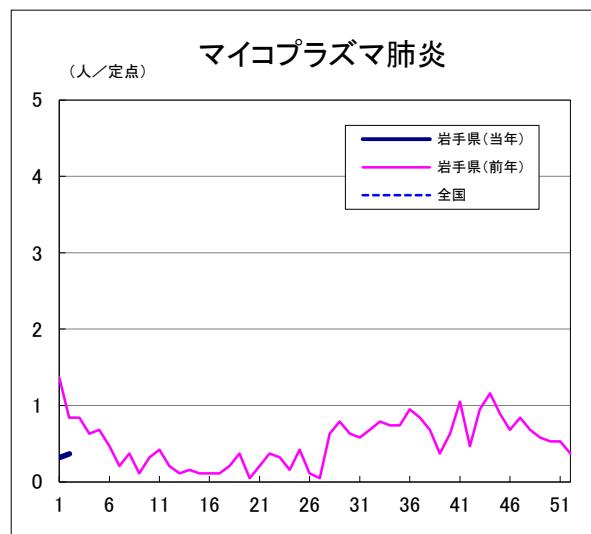
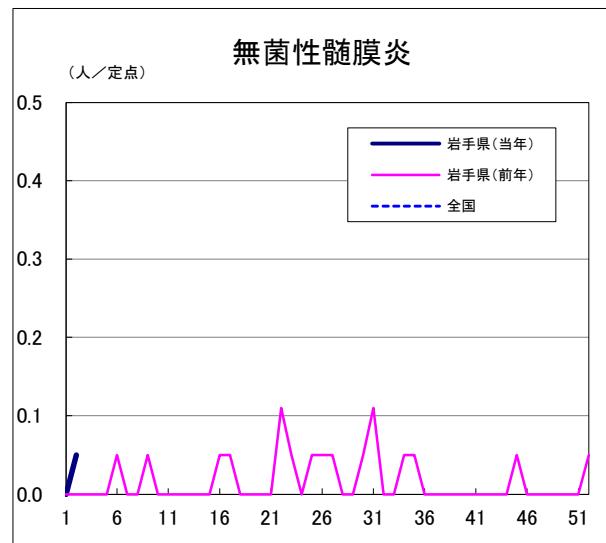
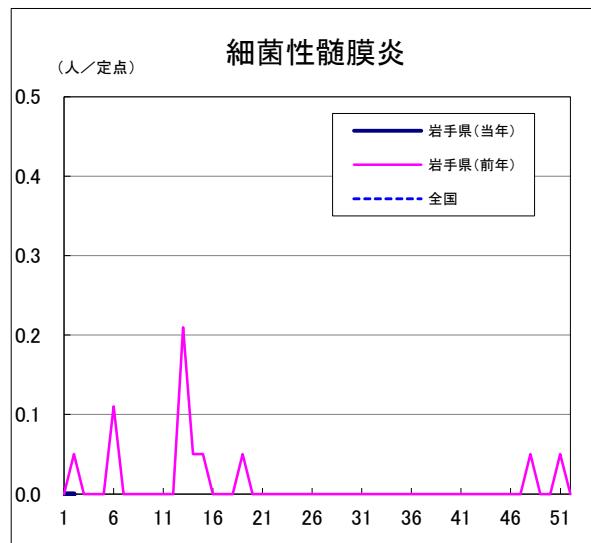
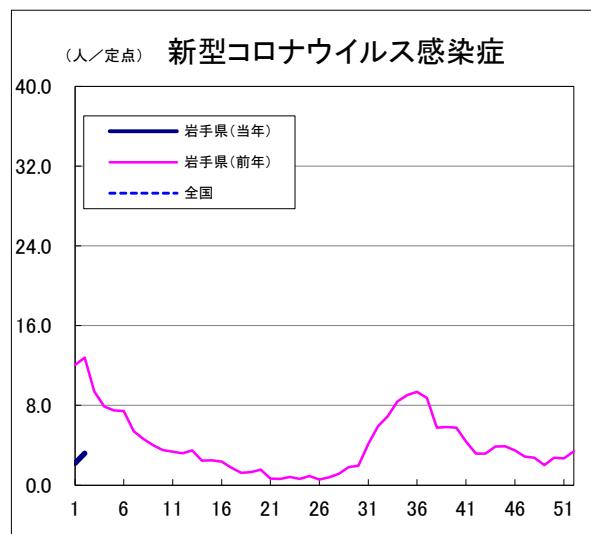
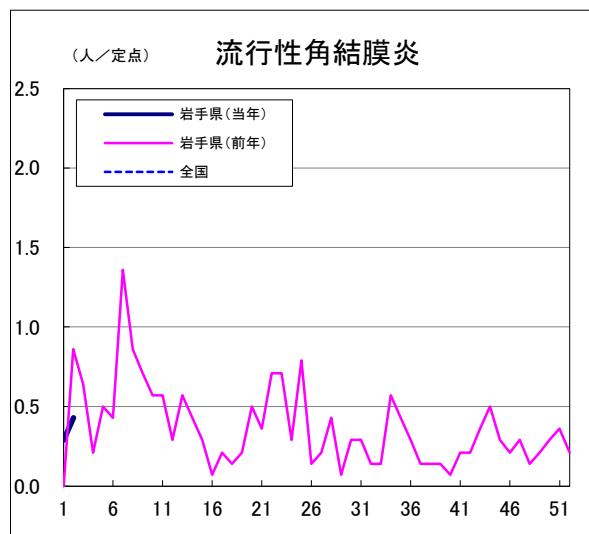
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡 1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

## 疾病別グラフ (定点当たり患者数の推移)







## 定点医療機関の数

地区 \ 定点種別	ARI定点	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	42	27	14	19
盛岡市	9	6	3	4
県央	4	3	2	1
中部	6	4	2	4
奥州	4	2	1	2
一関	3	2	1	2
大船渡	3	2	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	4	2	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

無料です!!

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下の URL からお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和8年第2週 令和8年1月16日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター

岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター

(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡 1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail : CC0019@pref.iwate.jp

URL : <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>